

米に関するマンスリーレポート(北陸版)

(令和7年7月号)

1 水稻の高温対策について

向こう1か月の天候の見通し：北陸地方(7/26~8/25)

「1か月予報(2025年7月24日発表)」の解説 新潟地方気象台 <https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcsst/kaisetsu/?region=010500&term=P1M>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間前半の気温がかなり高くなる見込みです。

太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

6月下旬から降水量が少なくなっています。期間のはじめにかけても太平洋高気圧に覆われて、降水量が少ない状態が続くでしょう。

農業技術の基本指針

高温対策

- ・葉色を見ながら生育診断を必ず行い、適期に適量の穂肥の施用を行うこと。
- ・出穂後の通水管理、収穫前の早期落水防止等の水管理を徹底すること。
- ・収穫作業については、高温によって登熟期間が短縮し、収穫適期が通常より早まる可能性があるため、出穂期以降の積算気温や籾の状態に十分注意し、刈り遅れとならないよう品種・地帯毎の収穫適期を判定する。

渇水対策

- ・農業用水の供給に影響が生じる可能性がある場合には、あらかじめ利水調整に関して地域内で話し合いを進め、不足が見込まれる場合には、番水や用排水の反復利用等を行い、農業用水の有効活用に努める。

各県の情報

各県から生育情報や高温対策、防除等について情報が公表されています。地域の状況に応じた対策を行いましょう。

 新潟県：【新潟地域】稲作速報
<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/niigata-norin/inasakunews.html>

 富山県：水稻TACS情報
<https://www.pref.toyama.jp/1612/sangyou/nourinsuisan/nougyou/kj00001830.html>

 石川県：気象災害対策関連情報
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/noken/kisyousaigai/kisyousaigai-top.html>

 福井県：稲作情報
https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/inasaku_2025.html

2 令和7年産米等の作付意向(令和7年6月末時点)

農林水産省は、各産地や生産者の経営判断の参考となるよう、令和7年産米等の作付意向を公表しました。

都道府県別にみると、主食用米の作付意向は令和6年産実績と比較し38道府県で増加、7都県で前年並み、2府県で減少の見込みとなりました。

北陸農政局管内では、4県とも主食用米が増加の見込みとなった一方、飼料用米等を中心に減少の見込みとなりました。(備蓄米については、令和7年産米の入札を当面中止しています。)

なお、作付意向については、今後変動することが見込まれます。

(千ha)

都道府県	主食用米			戦略作物											
	6年産実績	7年産意向	対前年実績	新規需要米											
				加工用米		新市場開拓用米(輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲(稲免餅粕飼料用稲)		麦	
				6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向	6年産実績	7年産意向
全国計	125.9万	136.3万		50.2	43.7	11.2	9.4	6.3	3.7	98.7	49.2	56.5	49.8	103.1	95.8
新潟	101.4	108.7	↑	6.8	6.6	1.8	1.5	1.4	0.7	2.9	1.4	0.7	0.6	0.2	0.2
富山	31.2	33.5	↑	1.1	1.3	0.4	0.4	0.3	0.3	1.9	1.5	0.5	0.5	3.3	2.9
石川	21.2	21.9	↑	0.5	0.5	0.1	0.0	0.2	0.2	0.5	0.2	0.1	0.1	1.2	1.1
福井	21.9	23.5	↑	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	0.1	1.5	0.9	0.2	0.1	5.2	5.0

注1：主食用米の6年産実績は、令和7年2月統計部公表の主食用米作付面積。

注2：主食用米及び戦略作物の7年産意向は、地方農政局等が6月末時点で都道府県農業再生協議会等に関与した面積(麦・大豆は基幹作の面積)。

注3：主食用米の対前年実績は、6年産実績と比較し、「↑」：増加傾向(1%超増加)、「→」：前年並み(増減1%以内)、「↓」：減少傾向(1%超減少)で分類。

注4：加工用米及び新規需要米(新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲)の6年産実績は、取組計画の認定面積。

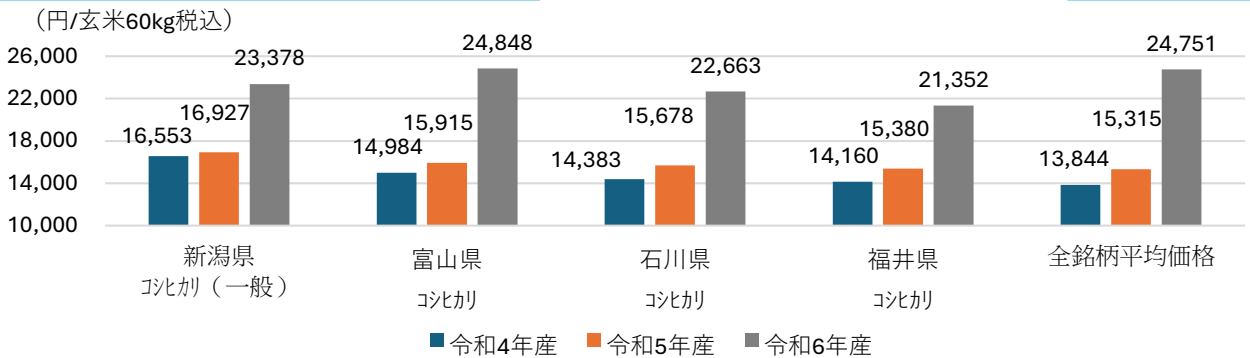
注5：麦・大豆の6年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に関与した面積(基幹作)。

注6：戦略作物の7年産意向の数値は、6年産実績と比較し、「↑」：増加傾向(1%超増加)、「→」：前年並み(増減1%以内)、「↓」：減少傾向(1%超減少)で分類。

農林水産省 北陸農政局

1 米の相対取引価格

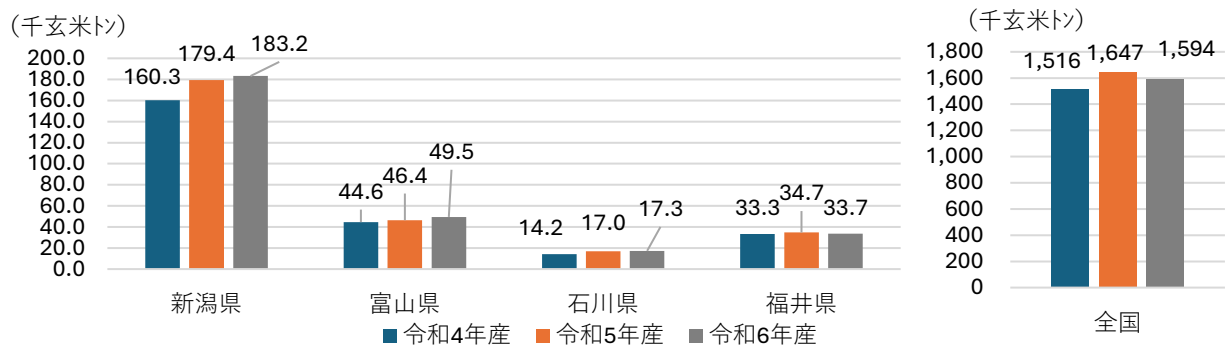
令和4年産及び、令和5年産は出回りから翌年10月まで、
令和6年産は出回りから令和7年6月までの平均価格



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
2 価格は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものである。
3 価格には含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の品代等は8%、運賃等は10%で算定している。
4 加重平均に際しては、新潟は受渡地を東日本としているものを、富山、石川、福井は受渡地を西日本としているものを対象としている。
5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定された大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の取引状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。また、算定に当たっては、契約価格に運賃を含めない産地在姿の取引分も対象としている。
6 報告対象産地品種銘柄ごとの年産平均価格は、当該報告対象産地品種銘柄の出回りから当該月までの相対取引数量ウェイトで加重平均により算定している（6年産は速報値）。
7 全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定している。
8 政府備蓄米を含む。

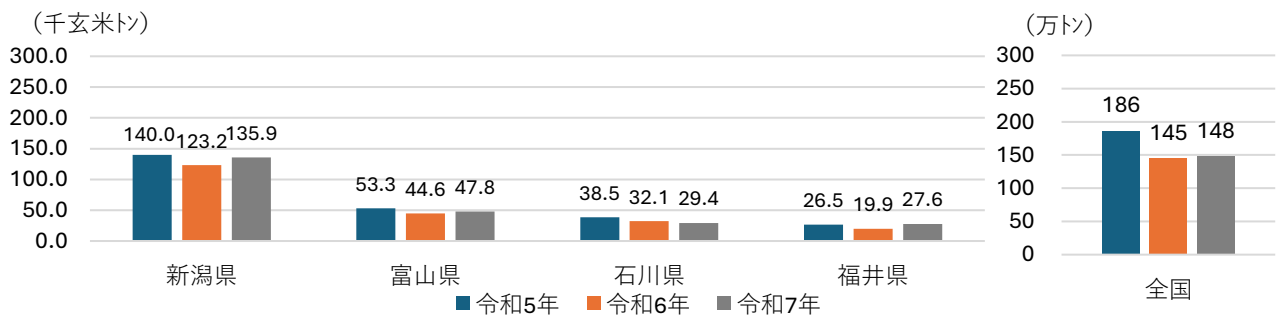
2 米の産地別販売状況（5月末現在）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。
3 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。
4 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。
5 売り渡した政府備蓄米の数量を含む。

3 産地別民間在庫の推移（5月末現在）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
4 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。
5 令和7年3月以降には、買戻し条件付きで売り渡した政府備蓄米（買戻し条件付売渡し米穀）の数量（令和7年5月末時点で19.7万トン）を含む。



←もっと詳細な情報をご覧になりたい方は農林水産省HPへ

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

もっと北陸の情報をご覧になりたい方は北陸農政局HPへ→

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/>



農林水産省 北陸農政局